

平成 28 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	指導	題名	ホップべと病・うどんこ病の効果的かつ低コストな防除体系		
[要約] ホップ生産において、6月下旬と7月中旬にマンジプロパミド水和剤を散布し、その1週間後の防除は省略する新たな防除体系により、べと病に対して現地慣行防除体系と同等以上の防除効果が得られる。また、毛花開花期～毬花期にテブコナゾール水和剤およびピラクロストロビン・ボスカリド水和剤を散布する新たな防除体系により、うどんこ病に対して現地慣行防除体系と同等の防除効果が得られる。これらの防除法を組み合わせた体系により、現地慣行防除体系と比較して防除経費が低減できる。					
キーワード	ホップ病害	化学合成農薬	防除体系	環境部	病理昆虫研究室

1 背景とねらい

国内のホップ生産では、栽培面積の減少等から化学合成農薬の新規登録が進まず、銅剤等の数少ない農薬を用いて防除体系が組み立てられていた。これらの農薬は長期の残効が期待できないことから防除回数が多くなり、防除労力および生産コストの増大につながっていた。

そこで、近年、ホップに対して使用可能となった効果の高い化学合成農薬を用いた、ホップ病害（べと病、うどんこ病）の効果的かつ低コストな防除体系を明らかにする。

2 成果の内容

- (1) べと病防除体系：6月下旬と7月中旬にマンジプロパミド水和剤（商品名：レーバスフロアブル）を散布し、その1週間後の防除は省略する新たな防除体系により、現地慣行の防除体系（6月下旬から1週間間隔で銅剤を散布）と同等以上の防除効果が得られる（図1、3）。
- (2) うどんこ病防除体系：毛花開花期～毬花期にテブコナゾール水和剤（商品名：オンリーワンフロアブル）およびピラクロストロビン・ボスカリド水和剤（商品名：ナリアWDG）を散布する新たな防除体系により、現地慣行の防除体系（毛花開花期から1週間間隔で炭酸水素カリウム水溶剤等を散布）と同等の防除効果が得られる（図2、3）。
- (3) 以上より、ホップべと病・うどんこ病の防除体系は表1の通りである。また、この防除体系により灰色かび病も同時に防除でき、現地慣行防除体系と比較して防除経費は低減できる（図2、3）。

表1 ホップべと病およびうどんこ病の新たな防除体系

時期	4～5月	6月		7月			8月
		…	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬
ホップ生育	株ごしらえ時	主茎伸長期	発蕾期	毛花開花期	毬花期		
防除	ユニフォーム粒剤	…	レーバスフロアブル	銅剤+ オンリーワンフロアブル	レーバスフロアブル	ナリアWDG	状況に応じて銅剤等

3 成果活用上の留意事項

- (1) 防除時期は各産地または各年のホップの生育ステージに応じて決定する。
- (2) 化学合成農薬に対する薬剤耐性菌の出現を回避するため、同一薬剤は連用しない。
- (3) 気象条件によっては病害の発生が助長される場合があるので、追加防除を行う。

4 成果の活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 岩手県ホップ連合会
- (2) 期待する活用効果 ホップ栽培暦作成の参考となり高品質で安全・安心なホップ生産に寄与する。

5 当該事項に係る試験研究課題

(402) 新農薬の効果検定と防除指針作成 [H9～30/民間委託]

6 研究担当者 菅広和

7 参考資料・文献

- (1) 岩手県農業研究センター 平成15年度試験研究成果 ホップうどんこ病の新奇発生と防除対策

8 試験成績の概要（具体的なデータ）

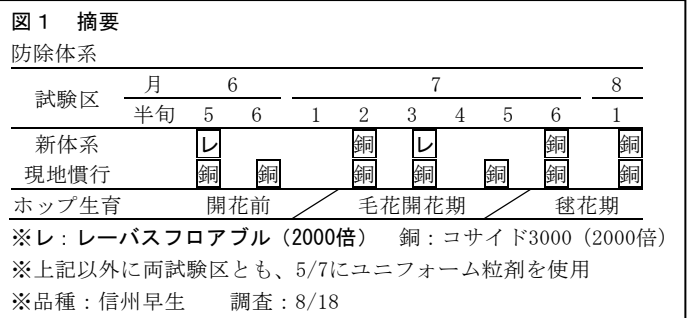
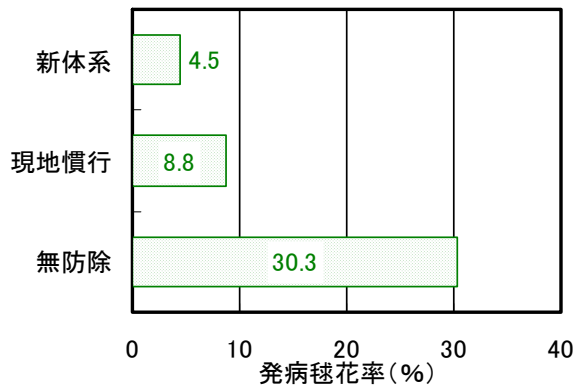


図1 ホップべと病に対する各防除体系の防除効果（平成27年、軽米町）

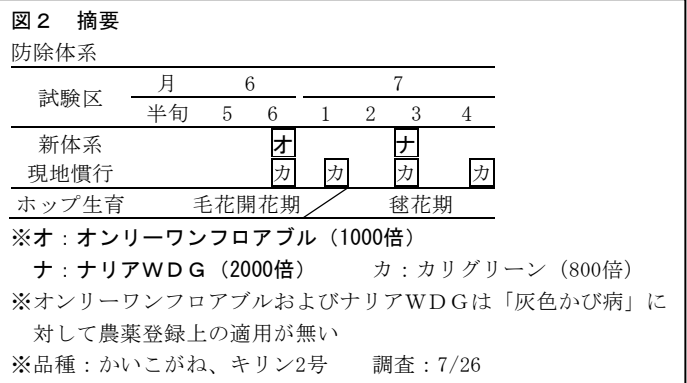
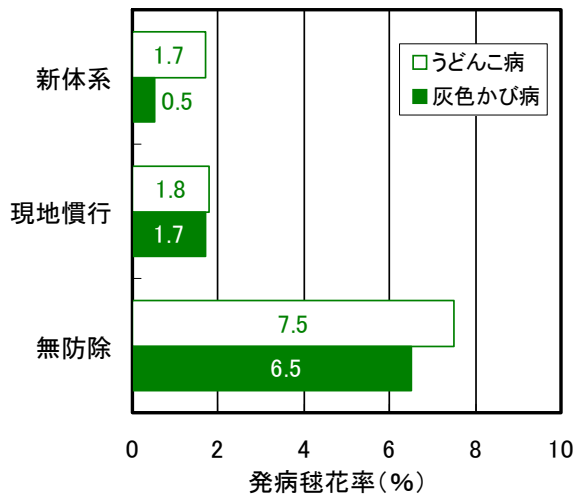


図2 ホップうどんこ病および灰色かび病に対する各防除体系の防除効果（平成28年、奥州市）

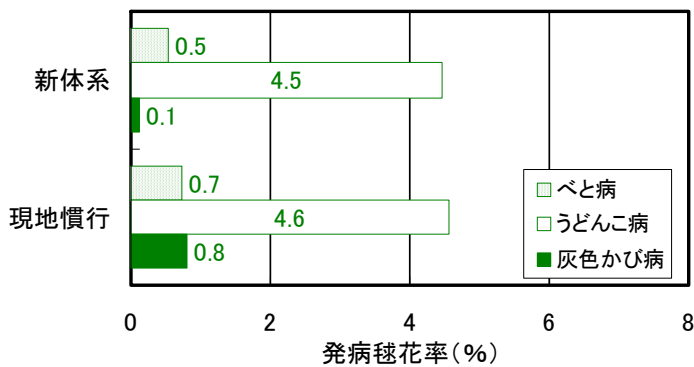


図3 現地農家圃場におけるホップ病害に対する防除効果（平成28年、軽米町）

